

# 幼保・小・中 学びをつなぐ

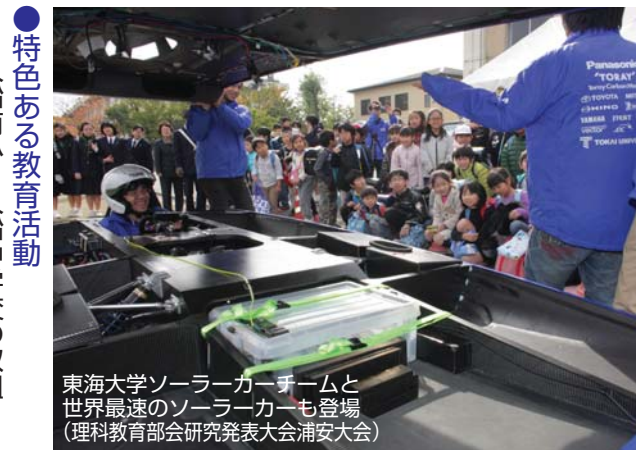
～子どもの実態の把握と教育ビジョンの実現に向けた学校・園の取組～

市内幼保・小・中学校(園)では、子どもたちの現状や問題を分析し、それぞれが分析を生かした特色ある教育活動を行うことで課題解決に取り組んでいます。  
浦安市教育ビジョンに掲げた5つの子ども像の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「豊かなかわり」「郷土愛」の実現のためには、就学前から義務教育9年間の学びをつなぐ視点が大切です。本特集では子どもたちの豊かに生きる力をはぐくむ幼保・小・中の「学びをつなぐ」取組について調査結果とともに紹介します。



**保護者の方の声(一部抜粋)**  
5年生で使われていた実験器具は手近にあるものを工夫して使っているような感じでいいなと思いました。実験をしている時の子どもたちの「どうなるんだろう?」という真剣な姿勢が印象的でした。(入船南小)

**学校支援コーディネーターの方の声(一部抜粋)**  
今回、初めて学力向上交流会という取組を知りました。子どもや保護者は自分の学校しか知りません。多くの学校の先生方が、お互いのよいところを取り入れ、各学校が質の高い授業を展開できたら、とても素晴らしいと思いました。(明海中・明海南小)

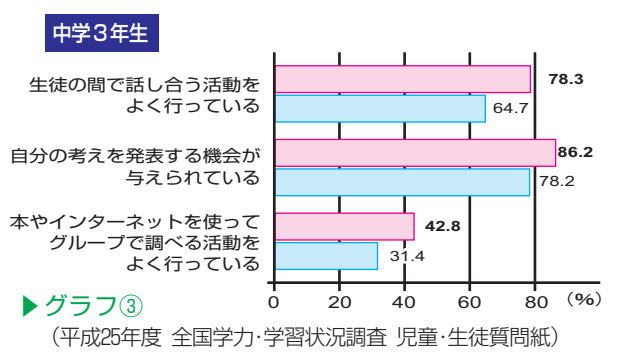
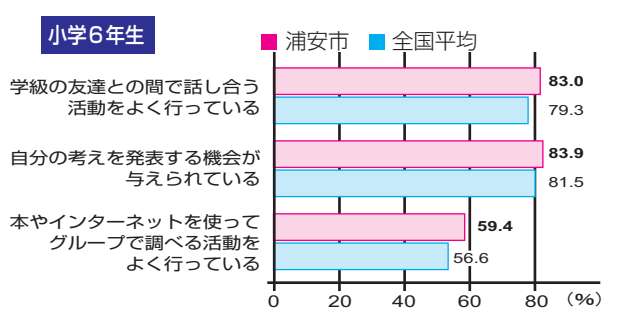


東海大学ソーラーカーチームと世界最速のソーラーカーも登場(理科教育研究会発表大会浦安大会)

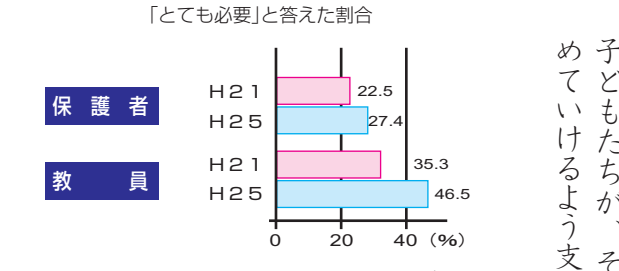
●特色ある教育活動

入船南小・入船中学校の取組  
市内各学校では子どもたちが生き生きと学ぶ授業づくりをめざし、

【学習活動に関わる設問】  
「当てはまる」「まあ当てはまる」と答えた割合

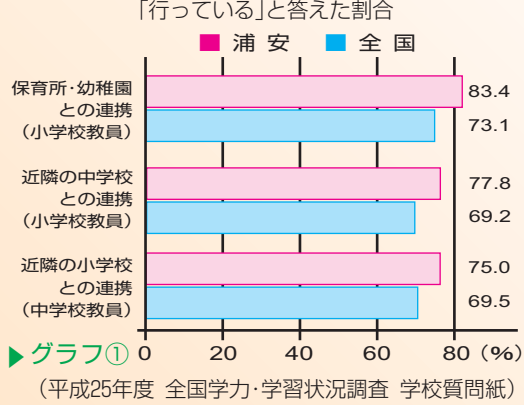


「児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」



浦安市では、教育に関する実態を把握するため、子どもたちの学力や意識、保護者・教員の教育に関する意識などの調査を独自に行っています。(なお、結果については浦安市教育研究センターHPに順次掲載していきますので、ご覧ください。)

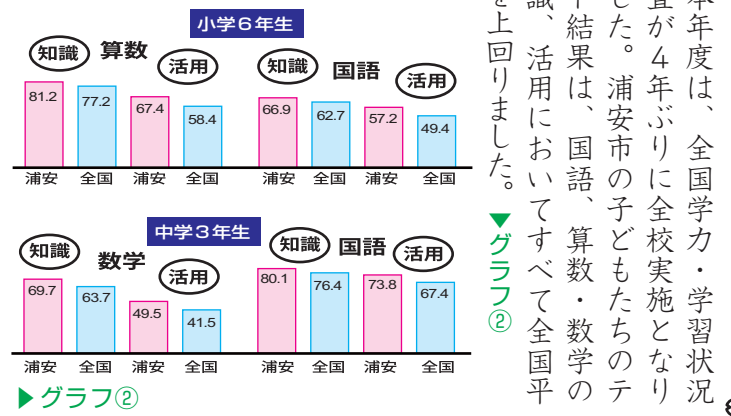
【幼保・小・小・中の連携に関わる設問】



**保護者の方の声(一部抜粋)**  
幼稚園でわらべ歌を経験してきて、家で親子一緒にやるようになりました。友達と手をつないだり体を触れ合ったりする遊びなので、友達の良さを認め、友達が大事と思うようになってきました。小学校入学に向けてとても大切なことだと思います。(若草幼稚園)

浦安市では、学びの連続性を重視した学習指導や継続的・系統的な生徒指導を展開する小中連携・一貫教育を推進しています。幼保・小・中の教職員が連携することで共通の願いを持ち、学びをつないでいくことは、浦安っ子の豊かな育ちにつながります。  
今年度行った全国学力・学習状況調査の学校質問紙によると、合同研修会や教員の交流、子どもたちの交流など、幼保・小連携や小中連携を行っている小・中学校の割合は、いずれも全国平均を上回る結果となりました。▼グラフ①  
浦安市の学校・園では、就学前から義務教育までの学びをつなぐ教育の推進が図られています。

平成25年度 全国学力・学習状況調査結果



確かな学力

本年度は、全国学力・学習状況調査が4年ぶりに全校実施となりました。浦安市の子どもたちのテスト結果は、国語、算数・数学の知識、活用においてすべて全国平均を上回りました。▼グラフ②  
若草幼稚園では、「人と人とのつながりの心地よさ」を味わうことが人間関係力の育成につながることを考え、伝承遊びを取り入れた活動を進めています。  
「遊び」は幼児期特有の学習といわれています。市内各幼稚園・保育園では、若草幼稚園同様、多様な「遊び」を通して「学ぶ力」の基盤作りをしています。

●「学ぶ力」の基盤づくり  
— 幼稚園・保育園の取組 —

●授業力・教師力を高める  
— 公開研究会・交流会 —  
若草幼稚園では、園児の実態から「人とかかわる基盤の育成」を伝承遊びを通して「〜」をテーマに、10月に公開研究会を開催しました。当日は、市内外から約100名の幼稚園教員や保育士、小学校教員が集まり、公開保育や研究の取組についての発表が行われました。  
また、小・中学校でも近隣五市の教員が参加して行われる学力向上交流会が10月に開催されました。今年度は明海南小・明海中学校を会場に、約200名の参加者が集

●一人一人に応じた教育を

学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力を形成するためには、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が欠かせません。  
浦安市では少人数教育や特別支援教育の推進に力を入れています。  
特に今回の意識調査では、特別支援教育について今後力を入れて行う必要が「とても」あると答えた保護者・教員の割合が、前回の調査よりも増加しています。▼グラフ④  
各学校・園では医師、指導主事、臨床心理士等の専門スタッフによる「まなびサポートチーム」と連携した支援が行われています。さらに、幼保・小・中学校(園)の教職員が早い段階で情報交換を行い、適切な対応につなげていくことで、子どもたちが、その持てる力を高めていけるよう支援しています。